

水稻生育情報 (No.2)

令和元年6月10日
県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
TEL:0296-24-9206

【生育概況】

生育状況は、草丈は地点によりバラツキがあり、茎数は平年並～やや少なく、葉色は濃くなっています。

表1 水稻定点調査結果(6月10日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色	
					葉色版	SPAD値
筑西市	5月1日	36	43.0	407	5.4	42.1
一本松	(5月2日)	(60)	(44.3)	(547)	(4.8)	(40.9)
下妻市	5月1日	47	45.3	423	5.4	45.0
加養	(5月1日)	(47)	(44.4)	(503)	(4.9)	(41.6)
桜川市	5月17日	65	28.4	325	5.0	39.6
元岩瀬	(5月14日)	(59)	(33.4)	(310)	(4.5)	(40.1)
桜川市	5月4日	50	40.4	336	5.1	41.7
真壁町飯塚	(5月6日)	(53)	(35.8)	(394)	(4.7)	(40.6)

()内は平成26～30年の5ヵ年平均値

【これからの栽培管理のポイント】

- 中干し開始時期を迎えているほ場があります。
分げつ盛期になると茎数は急激に増えるので、中干しの適期を逃さないようにしましょう。

・イネ縞葉枯病について

県西地域においてイネ縞葉枯病の発生が拡大しています。この病気は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。発病した後の治療方法はありません。

ウンカは5月下旬頃から水稻に飛来しますが、その際、ウイルスを保毒したウンカがイネを吸汁することで、イネが病気に感染します。保毒していないウンカが感染株を吸汁することで、新たにウイルスを保毒し、この繰り返しで被害が拡大します。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分げつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死します(写真1)。また、枯死しなかった茎でも正常に出穂しなかったり不稔となるため減収します。

・イネ縞葉枯病の防除について。

県病害虫防除所から6月6日付で注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。県西地域は、本病の被害が問題となっているので、育苗箱施薬と併せて、本田防除を行いましょう。

なお、本年はヒメトビウンカの発生が平年並～やや早く、本田での防除適期は6月13～21日頃です。

防除方法や薬剤等に関してご不明な点がございましたら、普及センターかお近くのJA各支店にお問い合わせください。



写真1 イネ縞葉枯病の症状